

自動車排気ガス測定結果

年度	測定場所	二酸化窒素(NO2)					一酸化窒素(NO)			窒素酸化物(NO+NO2)				
		年平均値	環境基準との対比				1時間値の最高値	前年度の年平均値	年平均値	1時間値の最高値	前年度の年平均値	年平均値	1時間値の最高値	NO2/NO+NO2(年平均値)
			1日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合	1日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合										
(ppm)	(日)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(%)		
23	公民館分館	0.025	0	0.0	19	5.2	0.074	0.026	0.036	0.274	0.037	0.061	0.339	40.7
	全県平均	0.022						0.023	0.021		0.022	0.042		
24	公民館分館「国設飛島自動車交通環境測定所」飛島村大字飛島新田字竹之郷イロノ割5	0.024	0	0.0	21	6.1	0.084	0.025	0.030	0.319	0.036	0.055	0.384	44.5
	全県平均	0.021						0.022	0.018		0.021	0.039		

愛知県環境部「あいちの環境」より抜粋

環境基準:1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。(昭和53年7月11日環境庁告示)

二酸化窒素(NO2) (にさんかちっそ)

大気中の窒素酸化物の主要成分。物の燃焼で発生した一酸化窒素が空気中で酸化して生成する。窒素酸化物の毒性の主要成分である。

一酸化窒素(NO) (いっさんかちっそ)

窒素酸化物(NOx)の一つ。物が燃焼するとき発生する窒素酸化物は、はじめ90%以上がNOとして発生するが、大気中で酸化されNO2に変化する光化学スモッグや酸性雨の成因に関連する。

窒素酸化物(NOx) (ちっそさんかぶつ)

空気中で石油や石炭等の物の燃焼、合成、分解等の処理を行うとその過程で必ず発生するもので、燃焼温度が高温になるほど多量に発生する。

窒素酸化物は人の健康に影響を与える。また、窒素酸化物は紫外線により炭化水素と光化学反応を起こし、オゾンなど光化学オキシダントを生成する。